何とどう向き合い、
考察し、
何を学び取るか

1期生1年間の学びと新入生へのメッセージ

国際経営学部、国際情報学部　開設から1年

国際経営学部、国際情報学部の２学部が開設されて１年が経ちました。１期生は、中央大学で最も新しい研鑽の場で、この１年間、さまざまな課題とどう向き合い、考察し、何を学び取ってきたのか。国際経営学部の５人、国際情報学部の３人が日々、積極的に取り組んでいる学修や活動について、初めての後輩となる新入生へのメッセージを含めて報告します。

国際経営学部

「刺激的な日々 学部独自の短期留学プログラムで豪州へ」

奥山千波

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはどのような期待を抱き、国際経営学部を選択されたのでしょうか。私は高校生の頃から国際的な分野に興味があり、また英語などの語学運用能力を向上させたいと思っていたので、この学部に強く魅力を感じました。さらに、「将来必ず役に立つ経営学や経済学を英語で学べるなんて一石二鳥じゃないか！」とも思った覚えがあります。

１年時は必修がほとんどで、経営学や経済学の基礎的な知識を学びます。基本的には座学となりますが、プレゼンテーションやコンピューターソフトを利用した授業も多く、刺激的な日々を送っています。私の場合は中国語の習得も念頭に置いているため、中国語の授業も取り、力をいれて学習しています。

開設２年目を迎えた国際経営学部は、新設であるがゆえに、さまざまなサポートや挑戦の機会が用意されていると思います。この一年で特に印象に残ったのは、国際経営学部独自の短期留学プログラムでオーストラリアに行ったことです。初めての留学でしたが、英語の勉強だけでなく、文化や歴史にも触れられ、素晴らしい経験ができたと思っています。

また、企業訪問で実際の職場の雰囲気を感じることができたり、大学生のうちにやっておくと良いことを知ることができたりしました。入学前は先輩がいないことに不安を感じていましたが、今はあまり感じていません。それは授業などに関わる方々の手厚いサポートのおかげであり、結局はどれだけ自分でチャンスをつかみにいくかが重要だからです。

国際的なこと、起業に興味…志はさまざま

社会人となっている先輩はいませんが、大学では私たちを頼ってください。国際経営学部には、起業に興味がある人や国際的なことに興味がある人など、本当にいろいろな志を持った人がいて面白いです。

私は、在学中に専門的な経済学などの知識と高度な語学運用能力を身につけることが目標です。それを生かして、将来的には国際協力機関で女性や子供といった社会的に弱い立場にある人々を支援する仕事に従事したいと考えています。

大学生としての生活は十人十色。現

時点で言えることとしては、自分次第で良い方向にも悪い方向にも転ぶということです。目標や興味のあることを持っている人は、そうでない人に比べ有意義な毎日を過ごしているように思えます。

まだやりたいことがはっきりしていない方もさまざまなことに挑戦したり経験したりして、視野を広げてみてください。皆さんも想像しているとは思いますが、専門知識を英語で学ぶということは容易なことではありません。私自身、日本語で学べたらもっと理解できるのに、と思ったことは何度もあります。

わからないときは、英語で書かれた内容を日本語に直して大体の意味を理解した上で、もう一度英語に戻るといった努力も必要になってくると思います。それと、一人ではどうしようもないときは、遠慮せずに先生方や事務の方、先輩に助けを求めることが大切です。皆さんとこれからの国際経営学部を開拓していけることを楽しみにしています。

国際経営学部

長浜吏紅（りく）

「英語と数学に徹底的に向き合う」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ほんの1年前、私も沖縄から中央大学に進学してきました。上京するにあたり、これから始まる大学生活に心躍らせたことを今でも覚えています。私が国際経営学部に進学しようと決めた理由は、1つ目に全科目のおよそ7割が外国語による授業であったこと、2つ目に1年次の必修科目での海外短期留学があったことでした。

国際経営学部では英語が非常に重要なファクターとなっています。そのため、春学期は必修科目のほかに、外国語の授業を選択し、英語と徹底的に向き合いました。また、中国語の授業も選択し、新たな言語を学ぶ楽しさを改めて感じました。

秋学期は、春学期と打って変わって、授業のレベルが一気に上がりました。必修科目にミクロ経済学と経営統計入門が入り、選択科目で経営数学入門を選択していた私は、英語と数字にひたすらに向き合わされました。

フォローアップ授業や英語学修をサポートするアカデミックサポートセンター（ASC）を利用することで、理解をさらに深めることができ、先生方からマンツーマンで指導してもらえるなど、充実したバックアップを実感しました。新設の学部で私たちに先輩はいませんが、学生と先生方、学部事務室の方々が一体となって成長しているように感じます。

卒業後は海外で働きたいというのが、私の現在の目標ですが、その目標をさらに明確なものとするために、これからの3年間、多くを学び、自分の目標を具体化していきたいと思います。最後に、常に周りへの感謝を忘れず、努力し、大学生活を楽しんでください。ともに切磋琢磨できることを楽しみにしています。チバリヨー新入生。

国際経営学部

「大事なのは「多様性を受け入れること」」

水嶋恵三

新入生の皆さん、こんにちは。私がこの短い1年間で感じたことをお伝えします。

私は英語が得意ではありません。ニュアンスだけで理解しているような感じです。それでも国際経営学部を志望した理由は、「自分の視野を広げたい」と思ったからです。ありきたりな理由かもしれませんが、小学校から高校までの間、野球ばかりしていた私にとっては、小さい頃から海外にいた人や、海外から来た人、年齢の違う人との交流は、新鮮そのものでした。

私は浪人を経て入学し、同級生の多くが年下ですが、そんなことは一切関係なく、その人が「英語を話せる」というだけでも、私にとっては尊敬の対象です。国際経営学部に入学して、私のような海外渡航経験がなく、英語もそれほど好きではない、得意ではないという人にとって必要だと思うことは、多様性を受け入れるということだと思います。

多様性については、本で読んだり、人から聞いたりして知っている言葉だと思いますが、実際に体験してみると違います。1年生の夏休みに参加した、オーストラリアへの1カ月間の短期留学で、英語が伝わる楽しさや文化の違いを多少でも感じたり、英語という一つの言語でありながら自分の理解していた言葉の意味やニュアンスなどに微妙な違いがあったりなど、私にとって初めての経験ばかりでした。

入学当初は、英語での会話に気後れしたこともあり、誰とも話す気になれなかった私ですが、さまざまな人と関わり、話していくうちに、自分がどんな人間であるかということを見つけられたと思います。

Anyway, no matter what you do, goal setting is essential.

慣れない英語を使ってみました。変な英語だったり、伝わらなかったりすれば、教えてください。これから、共に学んでいきましょう！

国際経営学部

宮本郁実

「経済、経営学の観点から学ぶ社会学」

私はもともと経済経営系の学部ではなく、社会学系の学部に進学しようと考えていました。高校時代は理系科目よりも社会科目の方が好きだったということや、人権問題への関心があったからです。しかし、いざ進路選択を迫られた際、「社会問題を社会学の観点からアプローチするのは安直過ぎないか。あえて一見無関係に思える経済学や経営学の観点から考えるのもおもしろいのではないか」と考えるようになり、経済や経営が学べる学部も受験し、中央大学の国際経営学部に進学しました。

1年次の春学期では、この関心を深めるため、「社会学」という科目を履修しました。国際経営学部では1年次の必修科目として基礎的な経営学や経済学を学ぶため、一緒に履修することで、経済や経営の見地から社会学を学ぶという、私の望んでいた学びを深めることができました。

また、春学期に「数学」も履修しました。高校時代、数学ⅠAまでしか学んでいなかったからです。国際経営学部で学ぶ経済学や統計学などでは、当たり前のように数学を用います。そのため、周りに後れを取らないように、早い時期に数学を履修しました。私が履修した数学の講義では、学部の勉強で必要となる単元に的を絞り、一から丁寧に学べたため、今は後れを取ることなく学べています。

チャレンジ精神、積極性がある1期生

私たちが入学した当初は新設学部ということで、右も左もわかりませんでした。時間割の組み方、忙しさ、どのような先生方が教えてくれるのかもわかりませんでした。しかし、だからこそ、自分のやりたいことに挑戦できたり、大きく捉えれば国際経営学部の色や雰囲気を自分たちで決められたりできるという楽しさもあります。そうした意味でも1期生はチャレンジ精神や積極性のある人が多いと思います。

もっとこうだったらいいなと思うところもあります。それは履修科目の単位数の融通です。卒業までに多くの単位修得が必要となりますが、1年次は36単位（約18科目）しか履修できず、高学年になると負担が大きくなってしまいそうな気がします。

同じ学部に先輩がいないということは、入学前からの大きな不安要素でした。しかし、今はその環境で良かったと思っています。なぜかというと、出会う学部の人は皆、同学年だからです。学部のラウンジに行けば誰か友達がいるし、皆が同学年だと思うと、気軽に話しかけやすく、友達作りもしやすいです。一つ先輩がいなくて戸惑う点を挙げるとすれば、定期試験や授業の様子が受けてみないと分からないところです。毎回、ドキドキしながら試験や授業選びをしています。

皆さんにとって先輩は私たちしかいませんが、たくさん力になれると思います。学部事務室の方々もとても温かく接してくださるので安心して新生活を迎えてください。これから共に大学生活を楽しみましょう！

国際経営学部

尾澤優季

「経営学、経済学用語、プログラミング言語…ふんだんに学ぶ」

私は多くの授業が英語で行われること、それによる英語力の上昇を期待して国際経営学部に入学しました。ただ英語を勉強するだけでは全く意味はないと思い、英語を用いた勉強ができることを期待していました。英語をベースにして経営学や経済学が学べるというのが他大学、他学部と違う利点だと思っています。

この1年間は、専門的な内容を学ぶための基礎知識をたくさん学びました。パソコンの使い方から、経営学用語、経済学用語、プログラミング言語まで知識をたくさん増やすことができました。また、中国語を履修したことで、夏休みの1カ月の台湾留学のときにも、現地でより深く楽しむことができました。

新設の学部に入学してよかったと思ったことは、先生方や事務室職員の方、私たち学生が一丸となって授業や“学部色”を作り上げていると感じられることです。先生も私たちの問いかけを親身になって聞いてくださいます。1年次に履修できる単位数に上限があり、受けられない授業が出てきてしまうのは、言語科目をもう少し多く履修したいと希望していた私にとって少し残念でした。ただ、必修科目に専念できるという面ではいいのかもしれません。

8月から長期交換留学へ

1期生で先輩がいないことに関しては、良いところと、そうでないところの双方があると思っています。授業の「型」や「展開」が決まっていない分、私たちが自由に作っていくこともできます。一方で、試験の概要や、課題で分からないところをすぐ身近に質問できる先輩がいないのは困ってしまいます。ただ、その分は先生方が質問に対して親切に対応してくださるのですが。

私は今年8月から英語圏の大学に1年間の長期交換留学に行くことを予定しています。国際経営学部での授業が英語なので、留学先での授業についてギャップを感じないと思っています。将来は海外で就職したいと考えているので現地でのコネクションを作れるように頑張りたいです。

新入生の皆さん。私たち1期生も未熟かもしれませんが、困ったときは一番身近で助けられる存在になれると思います。先輩は親切で話しやすい方ばかりです！　また、みんな夢を持っています。ぜひ私たちについてきてください！

国際情報学部

佐藤生成

「文・理の垣根超えた「学際的」な人物になる」

「情報」と「法律」を複合的に学ぶiTLは、自分が目指していた学際的な人物になることができる学部だと確信し、入学を決めました。母校の中央大学附属高校では3年次の課題の卒業論文で、以前から興味があった「eスポーツ」について執筆しました。「eスポーツ」に携わる方々の考えに触れていく過程で、文系・理系の垣根を超えた学際的な知識を身に着けることの必要性を感じるようになりました。新設されたiTLへの進学は必然だったといえると思います。

iTLではプログラミングやデータサイエンスなどの情報系から、民事法や刑事法などの法律系、哲学・倫理学まで幅広い知識を学ぶことができます。情報系の授業では情報技術だけでなく、マネジメントや企業法務など社会における実際の業務に必要な知識を学ぶことができ、それを興味深いと感じたことをきっかけに、情報系の資格であるITパスポート試験と基本情報技術者試験の勉強を始めました。

これらの資格試験とiTLの授業は親和性が高く、授業のノートやレジュメなども参考にして勉強し、無事合格することができました。自分にインプットした知識を、資格という形でアウトプットできるのは、とてもやりがいのあることです。現在は次のレベルである応用情報技術者試験に向けて勉強をしています。

「セキュリティー分野で社会貢献したい」

私はセキュリティーの分野に興味があり、将来はセキュリティーに関わる仕事をしたいと考えています。情報技術が発達した現代社会で、データはビジネスだけでなく外交や国防の分野でも重要になってきています。データを保護しつつ柔軟に利活用できるシステムを構築し、社会に貢献していきたいです。セキュリティーと聞くと、情報技術にばかり目が向きがちですが、iTLで学び始めてからは、情報の保護に関する法律や制度といった法学的な知識や物の捉え方も不可欠な要素であることを実感しています。

また、国家間をまたぐ「情報」を取り扱うにあたっては、時として、海外における「情報」というものに対する考え方や日本との文化の違いにも留意する必要があります。iTLの理念である「『情報の仕組み』と『情報の法学』の融合」、そしてこれを支える「グローバル教養」というコンセプトは、将来の目標に向けて着実に私を歩ませてくれます。

iTLの特徴のひとつに、1学年が150人の小規模学部であることが挙げられます。学生間の距離が近く、ほとんどの人と顔見知りであり、交友関係も広がりやすいと感じます。サークルや学園祭を一から築き上げていくバイタリティーあふれる仲間たち、また将来について語り合い、切磋琢磨できる相手が、より近くに、より多様にいます。刺激し合える仲間たちの存在は自分の視野を広げてくれます。

大学の4年間は何かに強制されず自分が興味を持ったことに取り組める良い機会です。その時間を生かすも、そうでなくするのも自分次第。不安はあると思いますが、私たち1期生も積極的にサポートしますので、気軽に声をかけてくれたらうれしいです。2期生の皆さんのiTLでの活躍を祈念しています。

国際情報学部

「iTLでの学び＝社会が求めるもの」

田村優奈

新しい学びの分野。文理融合型の思考。国際。1期生。これらのキーワードにひきつけられ、国際情報学部、iTLに興味を持ったことを覚えています。学際的な学びを標榜する学部は日本に複数ありますが、「法学」「工学」の観点から情報社会において必要な知識・スキルを学ぶことができる学部は他にありません。

映像が持つ影響力に興味を持ち、それらを多角的に分析したいと思うようになった私にとっては、まさに求めていた学びの場でした。また新学部に1期生として入学できる経験など滅多にありません。まだ実績も何もない学部を選んだ理由は、このような興味や好奇心が大半を占めていたと思います。

実際に入学して始まった授業は、法学と工学の複合学部であるだけに法律面から技術面まで実に多様なものでした。教授からの指導に加え、各分野で活躍する実務家の方々の講演も頻繁に実施され、より実践的な話を聞くことができます。まだ1年生の私たちにとって、触れるものすべてが新鮮で分からないことだらけ。学べば学ぶほどに自分の知識がいかに表面的なものであるかを思い知らされます。

それを痛感したのが、2月にニューヨークで開催されたAIの学会に、教授の研究補助員として参加したときのことです。1日に何百枚と並ぶ研究内容をま

とめたポスターを見て回り、いくつもの分野に分かれたワークショップに実際にいくつか参加してみると、情報技術のスピード感・レベルの高さに圧倒され、次々に変遷する情報技術に関する学修・研究に終わりはないこと、iTLで学ぶ私たちはまだその入り口に立ったに過ぎないことを思い知らされました。

「ぜいたくで面白い」大学での学修

それはAIなどの情報技術に関する知識だけでなく、英語力においてもいえることでした。大学に入学するまでに身につけた英語力はあくまで基礎にすぎません。各学問分野には専門的な単語が多く存在します。海外の研究者と議論するには、それらを理解しておくことはもとより、英語での高いコミュニケーション能力が求められます。

その夜は同じく学会に参加した友人たちと、研究発表の内容を理解できない自分たちの専門知識の浅さや英語力の乏しさに対する悔しさを話したことを覚えています。AIに関する最先端の研究に触れる機会は、私に多くの課題を突き付け、今後の学修へのモチベーションを与えてくれました。

大学での学びはこれほどまでにぜいたくで面白いものなのか。iTLに在学しているとそう実感できます。探究心や好奇心を掻き立て、今の世界そして未来の可能性に目を向けさせてくれます。iTLでの学びが社会に求められているものであることは、先述の学会での体験が証明してくれました。私がお会いした研究者の方がiTLをご存じで、「将来どのような学生が育ってくるのかとても興味があるので、ぜひ積極的に学んで欲しい」という激励をいただきました。この学部にいれば未知の世界を知るその権利を得ることができる、他のどの大学よりも早くITの世界に追いつく機会を得ることができる、そんな学部だと私は確信しています。

２期生の皆さんが、未知の世界に踏み出す大きな一歩としてiTLに入学されることを心よりお祝い申し上げます。

国際情報学部

津上ユリアン

「プログラミング、数学…1年間は情報の基礎固め」

私は小学生の頃からほとんど毎日パソコンを使用し、将来はITに関わる職に就くという夢を抱いていました。高校で文系の道を選択しながら、IT業界への最短ルートである情報学分野への進学を諦めきれずにいたとき、文系であり、かつ情報学を学べるiTLが開設されることを知り、受験・進学するに至りました。情報学のみならず、ビジネスの世界でも役立つかもしれない情報法を国際的な視点から学べることが魅力的だったことも志望した理由の一つです。

私がこの1年間特に力を入れて学んだことの1つに、情報に関する基礎固めがあります。授業で学んだことは、資格試験「ITパスポート」の合格という成果

も生みました。また、プログラミングにも興味を持ち、授業外でも自主的に独学で勉強を進めました。その中で、情報学では数学の知識が欠かせないという現実を知り、高校時代に苦手としていた数学を克服するために、数学の授業を履修したりもしました。

少しずつ情報に関する知識が増えてきているのを実感していますが、上級年次での高度な情報系の授業にもついていけるよう、さらに勉強を続けていきたいです。そしてもう1つ、英語力の向上にも注力してきました。私は中学時代をポーランドで過ごしていますが、使用言語はポーランド語。本格的に英語を勉強し始めたのは高校に入学してからで、英語は得意ではありませんでした。高校で英語圏からの帰国子女と接する機会に恵まれ、その中で英語を話したいという思いに駆られ、高校3年間は必死で英語を学びました。英語の勉強は大学に入学してからも続け、今ではTOEICのスコアは940点まで上がっています。

「専門性を磨くことの重要性」を痛感

iTLでは、学生向けのイベントが多く実施されます。私も積極的に参加していますが、その中でも、米国のペンシルベニア大学の学生と交流するイベントは、私にとって今後の学修へのモチベーションを大きく変える機会となりました。ペン大の学生が話している英語は聞き取ることができますが、専門的な用語が入ってくると理解が進まない。専門的な知識をベースにして展開される議論についていけない。海外の大学生の専門知識の豊富さ、学修意欲の高さに愕然としました。大学で専門性を磨くことの重要性を痛感した瞬間でした。

以前に学部長の講話を聞く機会があった際に「1期生が卒業しない限り、学部は完成しない」といった話があったことを覚えています。正直なところ、就職活動の実績がないこと、他大学に「情報」と「法律」を学ぶ学部が存在しないことは不安の種ではありました。しかし、国際情報学部は学生と先生方の距離感が近く、先生方にさまざまな相談をすることができます。企業や機関での実務経験のある先生も多いため、先輩がいなくても就職活動の相談ができると感じました。

iTLが、他の大学にない唯一無二の領域を扱う学部であるがゆえに、就職活動においては、学部での学びを深く聞かれることも多いでしょう。低年次で「情報」と「法律」の基礎を固め、高年次における研究でしっかりと成果を出せるように学修に励むつもりです。

iTLでは、ITをさまざまな視点から学ぶことができます。私のように文系でありながら情報学や数学を学びたい方、または理系でありながら社会科学系の学びも深めたい方にもぴったりな学部です。2期生の皆さんも自身の学びの幹になるものを見つけて、勉強に遊びに、充実したキャンパスライフを送りましょう。ご入学、おめでとうございます。